

六原まちづくり委員会  
令和3年度事業報告書

報告期間：令和3年6月1日～令和4年5月31日

【1. 具体的な活動内容】

まちの総合戦略を手がける第1部会と主に防災観点の取組を手がける第2部会を設置し、以下の活動を行った。

2部会共通事項

学識経験者・各種専門家を交え、表に示す回数の検討会議を実施した。

	コアメンバー会議	部会会議
第1部会	11回	8回
第2部会	3回	3回
2部会合同会議	1回	

第1部会

空き家対策と高齢者対策を主眼に、まちの総合戦略を検討する第1部会では、新型コロナウイルスの感染拡大による自治活動の停滞を引き続き大きな問題と捉え、人と人の接点消失によって生じたコミュニケーションの分断や、高齢者の孤立を緩和する手段として、ICT（情報通信技術）を積極的に活用した。

昨年度と同様に zoom を使ったオンライン会議を活用して感染症リスク無く、途切れずに会議を開催した。対面会議への参加者を感染拡大状況に応じて制限する上での指針となる「会議招集レベル」に応じて、対面と zoom 併用のハイブリッド会議の運営方法を選択した。昨年度明らかになった課題の一つに中高齢男性の ICT 苦手意識があるが、これを克服する為に、ICT に慣れているメンバーがサポートする取り組みを行った。10月には町会長を対象にアンケート用紙を配布する方式で自宅のインターネット環境整備状況を調査した。活動の記録と地域内外への発信を目的に、活動のデジタルアーカイブ化を進める第一歩として各種会議の動画を録画した。

空き家の利活用・発生予防を通じた人口流出の抑制、流入人口の増加対策として、町内会長、京都女子大学チーム及び不動産の専門家の協力を得て空き家調査を行い、空き家所有者に活用意向アンケートを実施し、インバウンドブーム終焉による宿泊施設の空き家化について実態調査を行った。高齢者の自立的住まいや流入人口増加に資する研究と情報発信を目的として学識、建築及び不動産の専門家等で勉強会を定期的に開催した。

## 第2部会

第2部会では、安心して住み続けられる町をテーマに、主にハード面の取組を地域住民・外部専門家・行政と連携して行ってきた。しかし、今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大で集まることは難しく、活動に大きな制約を受けた。

年度当初の会議では、今年度の取組として、毎年恒例の地域ローラー（防災まちあるき）、避難所設営訓練などをあげた。8月21日には六原学舎にある避難所用防災備品のチェック、11月28日には泉会・若宮会ブロックで地域ローラーを行うことができた。

また、今年度から新しい取組として、京都美術工芸大学の生川慶一郎准教授、学生との連携を始めた。10月28日は京都美術工芸大学の授業「伝統建築論Ⅱ」のフィールドワークに六原のコアメンバーが同行し、路地と防災まちづくりについて説明した。11月28日の地域ローラーでは、学生がまちあるき前のセミナーにオンラインで参加した。また今後、学生と地域が協力して「六原あんしんあんぜんマップ」の更新を進めることになった。

このように新しい取組はあったものの、秋の六原フェスタが中止されたため防災ブースでのPRはできなかった。また、年明けからオミクロン株による感染が拡大し、2月20日に予定していた避難所設営訓練はやむなく中止した。年間を通じて、講演会など大勢の人が集まる活動はできなかった。

## 【2. 活動の成果】

### 第1部会

ICT活用による会議では、コロナ感染拡大時にはzoom参加率100%を達成できた。六原自治連30カ町の町会長を対象にインターネット環境整備状況調査を実施した結果、自身でインターネットが利用できる方は20名に及び、各世帯でICT環境が整備されている状況を把握した。一方、アンケートの自由記述欄には「全メンバーの環境が整備されていないと公平ではない」とのコメントもあり、ICTで統一を図るのではなく、ICTと対面のハイブリッド型がいずれの場面でも重要であることを認識した。Zoom経験者の割合は、昨年度20%から38%に向上した。

人口流出の抑制、流入人口の増加対策として、空き家調査を実施した。空き家数203軒のうち長期空き家37軒（18.22%）、空き家率は17.85%だった。平成29年の調査と比較して空き家は31軒、空き家率は3.88%それぞれ増加した。空き家所有者へ活用意向アンケートを行った結果、143人中36人（回収率25%）から回答があった。空き家見守りボランティア、片付け支援、建物に関する相談への興味がある人が一定数おられた。

インバウンドブーム終焉により宿泊施設の空き家化への懸念から実態を調査した。閉業した宿泊施設23軒のうち16軒（70%）が集合住宅への用途変更など何らかの形で活用

されており、急激に空き家化している状況ではない。

高齢者の自立的住まいや流入人口増加に資する研究と情報発信を目的とした専門家勉強会を開催し、リバースモーゲージ、アドレスホッパーと空き家対策、耐震・断熱補強工事と京都市の制度情報更新、断熱工事後の住まい心地ヒアリング、行政の立場から固定資産税と空き家の問題を情報提供などについて情報共有した。今後は、地域の方へ分かりやすく伝えていく必要性を感じている。

## 第2部会

毎年町ブロック単位で行っている地域ローラーは今年で取組10年目を迎え、学区を一巡したことになる。危険ブロック塀等改善事業、緊急避難経路整備事業など、学区内での支援制度活用は9件にのぼった。地道な取組の継続が実を結んだと考えている。

今年度はコロナ禍のため大勢が集まることはできなかったが、どの取組も防災部会、自主防災会のコアメンバーが積極的に参加し、対話することで絆は深まった。

今年度から始まった京都美術工芸大学との協力は、長期間継続したい取組である。あんしんあんぜんマップの更新は時間がかかる作業なので、プロジェクトチームを作ることを考えている。学生には六原学区や防災について知ってもらい、地域としては若者の新しい感覚を刺激にまちづくりを進めることで、交流を続けたい。